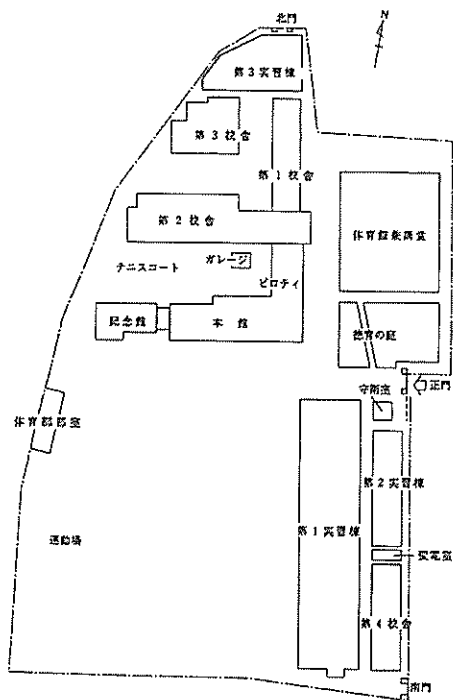


校舎復旧

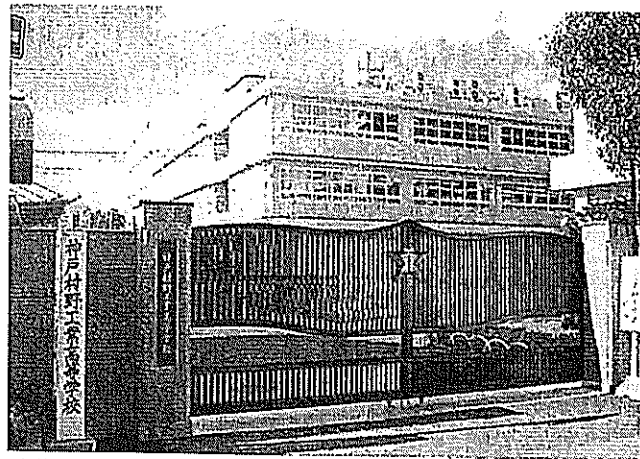
阪神・淡路大震災のあと、危険校舎の取壊しから新築、損復した建物・校門・付帯施設・設備類及び校地の補修など20カ月を費やして全部完了となり、正常な教育活動を行える体制に戻ることができました。



校舎全景



校舎配置図



改修終った正門

校舎復旧

新築校舎の概要

①第1校舎

取壊し 平成7年2月20日～3月30日

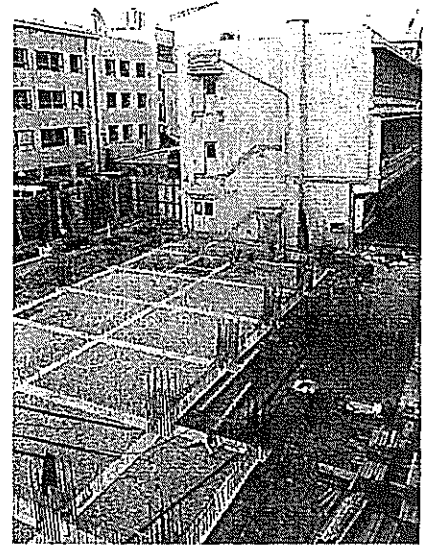
鉄筋コンクリート4階建1,174㎡

起工：平成7年8月11日 竣工：平成8年4月3日

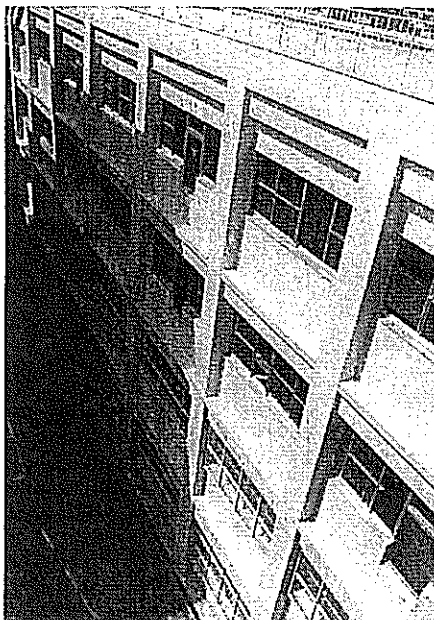
4階	教室	普通教室
3階	教室	普通教室
2階	教室	普通教室
1階	小ホール	生徒昇降口、各種集会



取壊し・解体工事が進む

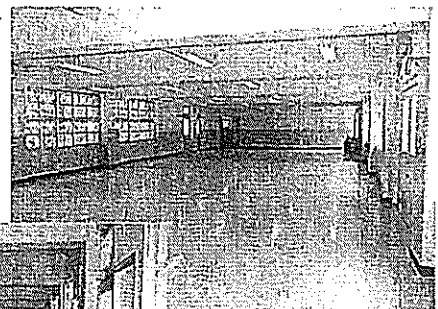


基礎工事開始



完成した第1校舎

完成した1階小ホール



完成した2階教室・廊下

校舎復旧

新築校舎の概要

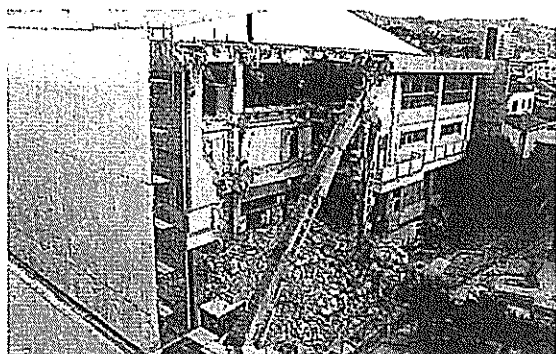
②体育館兼講堂

取壊し 平成7年3月1日～5月31日

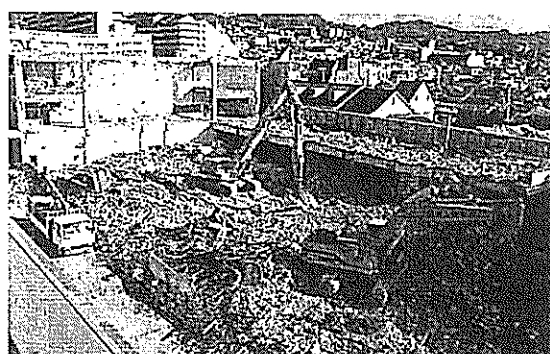
鉄筋コンクリート2階建一部3階2,583m²

起工：平成7年9月18日 竣工：平成8年7月10日

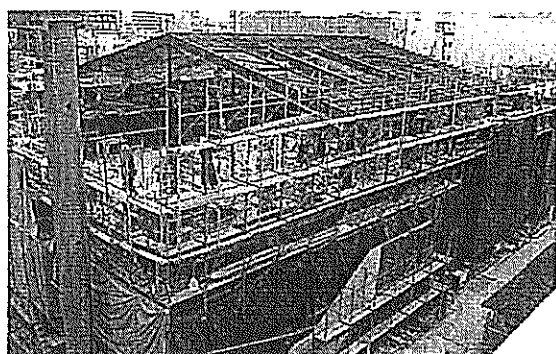
1階	食堂	テーブル46台、椅子276脚、生徒利用
2階	体育館兼講堂	体育授業、クラブ活動(バレー・バスケット・バトミントン・体操・空手道部)式典、講演会
1階	柔道場・剣道場	体育(柔道)授業、クラブ活動(柔道・剣道部)



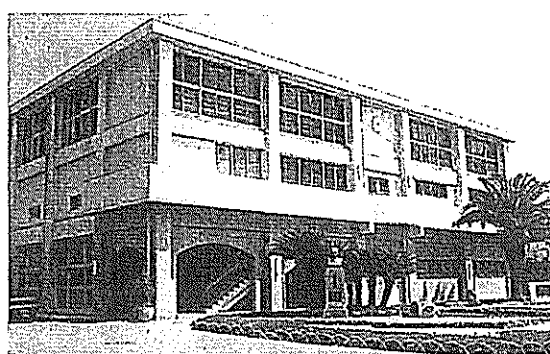
取壊し・解体工事開始



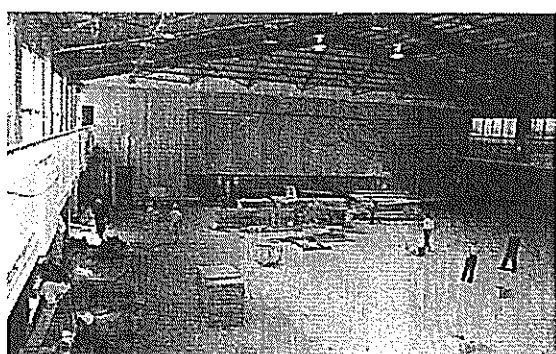
解体が進む



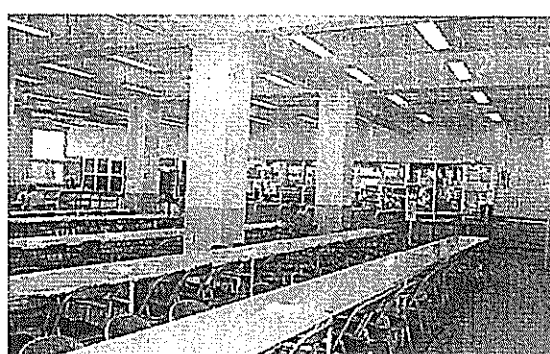
躯体工事が終わり外壁工事開始



完成した体育館兼講堂



2階体育館床面工事開始



完成した1階食堂

校舎復旧

新築校舎の概要

③記念館

取壊し 平成7年12月18日～平成8年1月31日

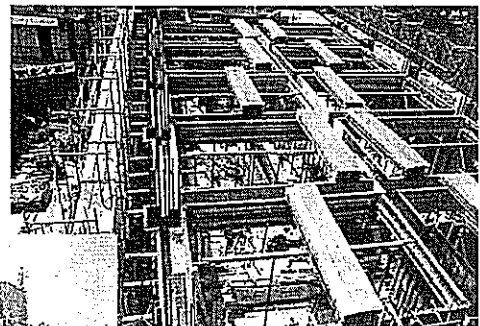
鉄筋コンクリート5階建1,232m²

起工：平成8年2月14日 竣工：平成8年10月14日

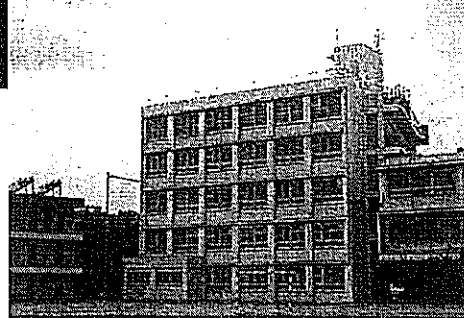
5階	多目的ホール	研修、講演会、各種会合
4階	情報基礎総合実習室	工業科1年生の「情報技術基礎」と普通科2年生の「オーラルコミュニケーション」の演習
3階	電算機実習室	コンピュータのハード及びソフトウェア技術に関する実習
	家庭科総合実習室（被服）	家庭科被服、ビデオ教材視聴による指導
2階	家庭科総合実習室（調理）	家庭科調理実習、食品の性質等の実験
1階	図書室	読書活動と指導、自習指導



取壊し・解体工事開始



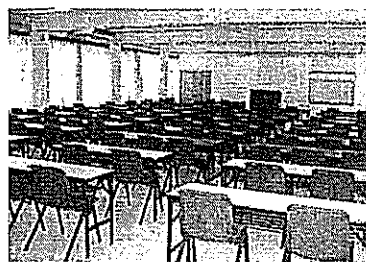
鉄骨工事が進む



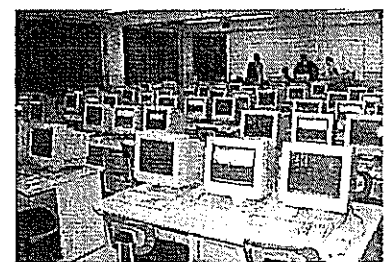
完成した記念館



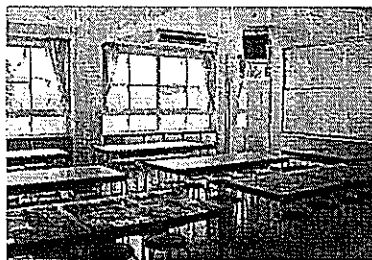
完成した3階家庭科調理実習室



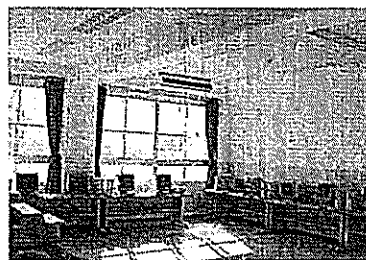
完成した5階多目的ホール



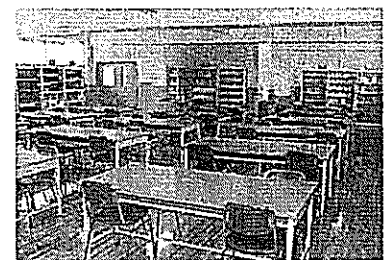
完成した4階情報技術基礎実習室



完成した3階家庭科総合教室



完成した3階電算機実習室



完成した1階図書室

「災難は忘れた頃に来る」ことを深く銘記して語り継ぐものとして『阪神・淡路大震災の記録』（平成8年6月30日発行）、『阪神・淡路大震災の復旧・復興記録』（平成9年8月1日発行）の2冊の記録集が既刊されているが、改めて震災後、学校・教職員・生徒がどう立ち向かってきたのかを社会の動きと対応しながら、学校のさまざまな動きを振り返ってみました。

年	月	日	社会の動き	村工の状況と活動
1995 (平成7年)	1月	17日	<p>1月17日 午前5時46分 阪神地方に震度7の直下型大地震発生！</p> <ul style="list-style-type: none"> 午前5時46分、県南部にM7.2の直下型地震発生。神戸、北淡町で震度6。 警察庁は判明死者1560人、不明者1017人と発表。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内諸建物の倒壊を免れるが、校門の門柱と隣接ブロック塀の一部が倒壊し、校地各所に陥没が見られた。 被害状況は特に第1校舎・体育館・記念館の3棟の柱に多数の座屈箇所があり、大被害を被った。その他各校舎・実習棟共多大の亀裂があり、建物入口扉等が閉塞・不動状態であった。 近隣の住民が避難して校内に入りこみ、校長判断により一時的に食堂（体育館1階）を開放、81世帯159名が避難した。 9時頃長田福祉事務所より、死亡遺体の収容・安置方を依頼され承諾する。
		18日	<ul style="list-style-type: none"> 警察庁は死者2000人以上、不明1060人、19万人が避難と発表。 東灘区御影浜町でLPGタンクからガス漏れ、住民避難 	<ul style="list-style-type: none"> 交通機関が破壊・不通、道路が破損・分断されて復興の見通しが立たず、職員・生徒の登校にも大きな支障があり、休校も止むを得ないものとなった。 被害状況の点検と被害箇所の写真撮影。 朝、自衛隊が運動場にテント約50張、自動車多数で駐屯する。 情報電子科2年B組山本将司君、自宅倒壊により死亡。 夜、草葺発電機（中国電力KK）により応急に守衛室、体育館だけ電灯供給
		19日	<ul style="list-style-type: none"> 三宮など再炎上。村山首相が被災地視察。 市営地下鉄西神中央駅一板宿駅間開通。神戸電鉄三田駅一鈴蘭台駅間、粟生駅一鈴蘭台駅間開通 	<ul style="list-style-type: none"> 遺体保全のドライアイス届く。 21日10時から職員集会を行う旨通達を教職員に電話連絡。出勤教員により職員室、事務室を応急片づけ。飲料水が育友会会員の方から投入。
		20日	<ul style="list-style-type: none"> 神戸市内で火災続発。 都銀などが預金払い戻し。避難所に避難した住民28万3千人と県発表。断水は95万世帯、ガス停止85万世帯。 気象庁が初の震度7（激震）判定。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年修学旅行スキー志賀班、旅行を中止する（情報電子科A・B組、普通科A・B・C組） 遺体数689体、体育館2階、体育館1階の柔道場・剣道場、第4校舎2階3教室、本館3階の会議室・廊下、中庭のテニスコートにテントを張って収容、安置した。 長田福祉事務所職員が守衛室横に机を置き、避難者や遺体の氏名確認などの問い合わせや対応に当たった。 自衛隊テント撤去、一部残る。 夕方、本館玄関前にNTTより無料簡易電話5台が設置された。 前日に続き「21日10時から職員集会を行う」通達を教職員に電話連絡する
		21日		<ul style="list-style-type: none"> 10時、職員召集、教職員50名が出校した。生徒の把握、教室等の被害と各室内の破損や設備の応急整理、11時40分から生徒の登校、卒業試験の中止、入試の実施について協議した。 電灯・電力の供給開始。 緊急職員集会。 校長より校内被害状況、長田区民犠牲者の遺体安置所、近隣住民の避難場所、自衛隊の暮営などについて報告。 出校教職員により職員室、管理室、事務室の後片づけと清掃。 学級担任によりクラス被害状況の調査と教室の後片づけ。

年	月	日	社会の動き	村工の状況と活動
1995	1月	21日		<ul style="list-style-type: none"> 明日から出勤できる教職員により瓦礫や倒壊した器物などの作業協力。 1、2年生は2月1日午後1時登校、3年生の卒業試験は中止、卒業式は2月21日午後1時と決定。
		22日	<ul style="list-style-type: none"> 死者4914人に、そのほとんどが圧死。 余震発生1千回、うち有感105回と気象庁発表。 	<ul style="list-style-type: none"> 午後4時、FAXでサンTVヘテロップ放映を依頼した。内容は前日の決定事項「1・2年生は2月1日午後1時登校、3年生卒業試験は中止、卒業式は2月21日午後1時」である。 学校再開のための授業、行事、入試、施設の復旧、震災関係の外部報告・連絡など4部門の緊急対策プロジェクトチームを編成決定。
		23日	<ul style="list-style-type: none"> JRが須磨以西で運転再開。 JR、阪急、阪神が不通の西宮一三宮間に代替バス運行を始める 休校中の小、中、高校のうち約180校の児童、生徒が登校 関西電力が被災地全域に仮送電。死者5千人超す。 	<ul style="list-style-type: none"> 明和工務店、被害現場写真撮影。 担任先生に対して「生徒の消息とテロップ放映の内容」を生徒に電話連絡するよう指示通達した。 出校職員による職員室、教室、実習室などの整理作業と破損個所の点検・報告を依頼。
		24日	<ul style="list-style-type: none"> 政府が激甚災害指定。 死者5062人に 兵庫県での避難者は、約31万人 	<ul style="list-style-type: none"> 明和工務店、建物診断を行い、第1校舎・体育館・記念館は主柱が座屈している為危険と判定された。 長田区役所に避難者を本校から他の施設へ収容するよう依頼した。 前期入試問題検討会議
		25日	<ul style="list-style-type: none"> JR甲子園口一芦屋間が復旧。 私学連合会が、私立中・高校の入試期日延期を決定。 	<ul style="list-style-type: none"> 松浦設計事務所長、松浦氏の安全確認が行われた。 運動場入口付近に簡易便所が設置される。(東京都新宿区役所よりの救援) 本日は3年生生期末考査開始の予定だったが中止。
		26日	<ul style="list-style-type: none"> 阪神電鉄甲子園一青木岡運転再開 「疎開」児童、生徒1万人を超える 神戸市が震災復興本部。 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急対策プロジェクトチームを編成。学校再開のために授業・行事、入試、施設の復旧、震災関係の外部報告・連絡の4部門で検討することになった。 遺体数は最終的に780体となった。この間、一部の遺体に異臭・異状も生じた。遺体の検視が終わったものから逐次見寄りに引き取られ、1月26日夕方までに全部が撤去された。 「27日10時から校務運営委員会を行う」旨の通達を関係教員に連絡。
		27日	<ul style="list-style-type: none"> 山陽電鉄明石一霞ヶ丘間再開。 中国自動車道が全通。 神戸市が仮設住宅入居受け付け。 	<ul style="list-style-type: none"> 入試打合せを行い、平成7年度前期入学試験を次の通り決定し各中学校にFAXまたは速達便にて連絡する。 願書受付 2月1日～2月15日 入試日 2月26日(日) 午後1時開始 場所 3会場 明石(市立望海中学校の校舎借用) 本校 尼崎(県立尼崎小田高等学校の校舎借用) 入試問題 50分間の問題を30分間に、1科目60点、計180点満点に縮小し、校内印刷とする。 神戸市北区職員(岡山市有志)から水の救援。 10時から校務運営委員会。校内の被害状況について校長より報告。1月30日職員会議を開くことを各職員に電話して召集する。緊急対策プロジェクトチームの委嘱。 引き続き授業・行事プロジェクトチーム会議、施設復旧プロジェクトチーム会議、入試プロジェクトチーム会議をもって検討し校長に報告。
		28日	<ul style="list-style-type: none"> 行方不明者の捜査に、兵庫県警と自衛隊15000人を動員、6遺体を発見 	<ul style="list-style-type: none"> 第2校舎の電灯修理、ガラスの嵌め込み、屋上の高架水槽の取替、給水配管工事に着手。 2年修学旅行スキー戸隠班、旅行を中止する。

年	月	日	社会の動き	村工の状況と活動
1995	1月	28日	・死者は5090人になる ・国道43号線が全線開通。	(電気科A・B・C・D組) ・理科、工業科の実験・実習の備品・器具などの破損状況の点検を依頼。 ・授業・行事プロジェクトチームより1、2年生の臨時時間割作成作業。
		29日	・神戸市が損壊家屋解体申し込み受付。	
		30日	・JR神戸一須磨間開通。 ・転校児童、生徒が1万5千人超す。	・10時、第2回職員招集、職員会議を行う。内容は「1・2年生の授業再開、卒業式・入学試験の打合わせと準備」と「クラブ活動は当分の間中止する」である。 ・学級担任から生徒へ下記のことを電話連絡をする。 「1・2年生は2月1日(水)午後1時に可能な限り登校する。3年生は学年末考査は実施しない。卒業判定は1・2学期の成績・出席時数等により判定する。卒業式は2月21日(火)午後1時から行うので、その間は自宅待機する」このことについては朝日・毎日・産経・神戸新聞の各社に掲載を依頼、またサンテレビ、NHKラジオに報道を依頼する。 ・校門の周りのブロック崩れ取り壊し ・本校教職員被害状況は家屋の全壊・全焼6名、家屋の半壊・半焼16名、親族の死亡9名。
		31日	・天皇、皇后陛下が被災地をご訪問なされる。 ・神戸市が6地区の建築制限など復興計画基本方針発表。 ・断水 神戸市 28万7000世帯 復旧56% 西宮市 13万3000世帯 復旧18%	・午後、避難者残留の約60名が長田福祉事務所の指導により本校体育館(食堂)から他の施設(長田保育所・宮川福祉センター)へ移る。 ・体育館が崩壊の危険につき全面閉鎖する。 ・入試業務プロジェクトチーム会議
	2月	1日	・復旧作業、物資搬送で国道2号線、43号線通行。 ・阪神電鉄、三ノ宮-高速神戸間開通 震災後初めて三ノ宮に電車が乗入れた ・神戸市、三ノ宮周辺など6地区を建築制限区域に指定	・生徒の登校日 午後1時、1・2年生登校 校内放送で ①阪神・淡路大震災による本校生徒の犠牲者、情報電子科2年山本将司君への哀悼の意を表し、全員で黙祷する。 ②校長講話 ホームルームで ①生徒の「被害状況等の調査」を行った。 ②2月13日(月)から授業再開に当たっての授業時間割の発表と今後の行事日程等についての連絡をした。 生徒は1246名中、1097名が登校、出席率88%であった。 3年生595名全員の安否・所在も確認された。 ・本日より願書受付始まる。 専願志願者18名、一般志願者86名、計104名のスタートであった。 ・この日神戸高速線阪神三宮駅-高速神戸駅間開通 教員が手分けして最寄りの各駅で登校生徒に対して道順の指示。
		2日		・3年生の担任先生、卒業判定資料を提出、判定基準は次の通りに決められた。 ①1、2学期の成績の平均を学年末の成績とする。 ②出席時数については1、2学期の合計をもって25%以上であることを基準に助算する。
		4日	・神戸・東灘で新たに2断層発見。	・2月2日より変電室点検、第2・3校舎電灯修理、実習棟補修工事 ・施設復旧プロジェクトチーム会議
		5日	・神戸・長田で合同葬	

年	月	日	社会の動き	村工の状況と活動
1995	2月	6日	<ul style="list-style-type: none"> ・高速神戸～新開地間、花隈～新開地間が復旧。 ・罹災証明書発行開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動場北側部分にプレハブ仮設校舎の縄張りを行う。
		7日	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸電鉄鈴蘭台～長田間が運転再開。 ・震度7地域（気象庁現地調査）須磨から西宮まで帯状に20キロメートル宝塚市、淡路北部三町 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習棟通路工事、第2校舎・本館等の土間補修。 ・三田市立狭間中学校長岡本武夫先生被害見舞来訪
		8日	<ul style="list-style-type: none"> ・JR東海道線芦屋～住吉間で運転再開。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業判定会 機械科175名、電気科181名、情報電子科88名、普通科151名計595名について審議、結果全員が卒業の承認を得る。
		9日		<ul style="list-style-type: none"> ・2月9日よりプレハブ仮設校舎基礎工事及び実習棟電灯修理工事。
		13日	<ul style="list-style-type: none"> ・阪急御影～王子公園前で運転再開。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業再開（1～2年生）…特別時間割による授業実施 10時から40分授業を2時間、SHR10分を3月2日まで行う。 (生徒の通学時間) 1時間30分以内 2.3% 1時間30分～2時間 77.4% 2時間～4時間 20.3% 第1時限(10:10～10:50) ホームルーム 机の整理、罹災状況の再調査など 第2時限(11:00～11:40) 授業(特別の時間割による) S・H・R(11:40～11:50) 授業の再開…第1日の出席率は1年生95.6%、2年生95.9%。 ・この日より安全確保のため最寄りの交通機関の駅で手分けして道順などの指示。
		15日	<ul style="list-style-type: none"> ・JR和田岬線運転再開。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期入試願書受付締切る 専願志望者95名、一般志望者1945名、計2040名となり、昨年より8.6%の減少であった。 ・プレハブ仮設校舎及び体育館・第1校舎復旧のための現場事務所が設置される。
		16日	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市営地下鉄が全線開通。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同窓会から被災生徒に対し通学カバンと布製筆箱を無料配布した。(カバン1年12個、2年15個、筆箱1個) 入学審査会場として借用する明石市立望海中学校、兵庫県立尼崎小田高等学校に挨拶。
		17日	<ul style="list-style-type: none"> ・震災1カ月、避難所生活者は21万2千人。 	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県民黙祷の日 阪神大震災1ヶ月の今日、正午からNHKの放送を合図にS・H・Rの時間で1分間の黙祷をささげ震災で亡くなった人々の冥福を祈る ・プレハブ仮設校舎1棟建上る。 ・第1回私立学校施設災害復旧事業に係る事務処理説明会が三田市、三田学園小寺ホールに於いて開かれた。震災補助等に関して、計画書の作成のための設計図・積算見積書200頁、被害写真は17日から撮った写真500枚を選択して、同じものを4部作成、2月24日の提出期限に間に合せた。
		20日	<ul style="list-style-type: none"> ・JR神戸駅～灘駅間、阪神電鉄岩屋駅～三宮駅間開通。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1校舎取壊し開始する。 ・水道が給水開始された。 ・前期入試主任打合せ会 ・特別時間割による授業実施
21日	<ul style="list-style-type: none"> ・山陽電鉄東須磨駅～須磨寺駅間開通。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第47回卒業式を行う。 午後1時より運動場で時折粉雪が舞い散る中、3年生595名全員が出席、卒業証書が授与された。 ・卒業生は当日、学生服、ズボン、カッターシャツ、体換 		

年	月	日	社会の動き	村工の状況と活動															
1995	2月	21日		<p>服、実習服、靴、通学カバン、製図用具、ポケコン、電卓、教科書を被災後輩のため多数寄贈してくれた。</p> <p>・卒業式の後、ホームルームで「被害状況調査」を行った。(1・2年は2月13日に調査済)</p> <p>①生徒の被害状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> <th>調査時合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>家屋の全壊・全焼</td> <td>36</td> <td>31</td> <td>43</td> <td>110名(6.0%)</td> </tr> <tr> <td>家屋の半壊・半焼</td> <td>32</td> <td>50</td> <td>57</td> <td>139名(7.6%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>②避難した生徒 合計183名で全校生の9.9%であった。 内訳 神戸市内124名、兵庫県内で神戸市以外は27名、他府県は32名</p> <p>③生徒の転出 文部省の通達(平成7年1月26日)により、被災した生徒の転入学等の受入れについて特別の措置を講じるよう配慮されたため、本校から7名の生徒が県立又は都立の普通高校・工業高校に転出した。</p> <p>④本校の犠牲者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全生徒数 1907名 ・生徒死亡 1名 ・家族死亡 10名 ・家族負傷 9名 ・教職員数 102名 ・教職員死亡・負傷 0名 ・家族死亡 9名 ・家屋の全壊・全焼 6名 ・家屋の半壊・半焼 16名 		1年	2年	3年	調査時合計	家屋の全壊・全焼	36	31	43	110名(6.0%)	家屋の半壊・半焼	32	50	57	139名(7.6%)
			1年	2年	3年	調査時合計													
		家屋の全壊・全焼	36	31	43	110名(6.0%)													
		家屋の半壊・半焼	32	50	57	139名(7.6%)													
		22日			前期入試打合せ会、会場別入試打合せ会。														
24日			<p>・被災生徒の納入金(入学金・授業料)の軽減 兵庫県は私立学校が被災した生徒に対し入学金・授業料の軽減を行わざるを得ない状況を考慮、私立学校に特別軽減対策としての財政支援を行ってくれることが決まった。このことを受けて保護者に下記の内容の文書を配布、提出期限は3月3日であったが「罹災証明書」の大幅遅れで5月末日まで延長された。</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>全壊・焼の場合…授業料及び入学金の全額免除</td> </tr> <tr> <td>半壊・焼の場合…授業料及び入学金の半額免除</td> </tr> </tbody> </table> <p>減免対象者の判定は市区町発行の「罹災証明書」を基準とした。</p>	全壊・焼の場合…授業料及び入学金の全額免除	半壊・焼の場合…授業料及び入学金の半額免除														
全壊・焼の場合…授業料及び入学金の全額免除																			
半壊・焼の場合…授業料及び入学金の半額免除																			
25日			<p>・入試準備…担当職員は各入試会場で業務を行う。</p> <p>・1-2年生宅習</p>																
26日		<p>・西宮市、芦屋市で合同慰霊祭 皇太子ご夫妻献花 ・兵庫県私立高等学校の入学試験実施。</p>	<p>・前期入学試験を実施 本校では校舎等の損壊と交通機関の途絶のため下記の通りに実施する。</p> <p>考査日 2月26日(日)午後1時</p> <p>考査会場 第1会場…本校 神戸市内(東灘区・灘区を除く)と三木地区の中学校の生徒</p> <p>第2会場…明石市立望海中学校 明石市以西の中学校の生徒</p> <p>第3会場…兵庫県立尼崎小田高等学校 神戸市灘区以东の中学校の生徒</p> <p>考査方法 国語・数学・英語の3教科を各30分に短縮して、筆記試験を行う。</p>																

年	月	日	社会の動き	村工の状況と活動																																																	
1995	2月	26日		志望者数																																																	
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>科 別</th> <th>機械</th> <th>電気</th> <th>情報電子</th> <th>普通</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>募集人数</td> <td>200</td> <td>200</td> <td>100</td> <td>150</td> <td>650</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">志願者数</td> <td>第1会場</td> <td>456</td> <td>227</td> <td>147</td> <td>260</td> <td>1090</td> </tr> <tr> <td>第2会場</td> <td>289</td> <td>103</td> <td>76</td> <td>244</td> <td>712</td> </tr> <tr> <td>第3会場</td> <td>96</td> <td>63</td> <td>27</td> <td>52</td> <td>238</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>841</td> <td>393</td> <td>250</td> <td>556</td> <td>2040</td> </tr> <tr> <td>欠席者数</td> <td>11</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>受験者合計</td> <td>830</td> <td>385</td> <td>245</td> <td>551</td> <td>2011</td> </tr> </tbody> </table>	科 別	機械	電気	情報電子	普通	合計	募集人数	200	200	100	150	650	志願者数	第1会場	456	227	147	260	1090	第2会場	289	103	76	244	712	第3会場	96	63	27	52	238	合計	841	393	250	556	2040	欠席者数	11	8	5	5	29	受験者合計	830	385	245	551	2011
				科 別	機械	電気	情報電子	普通	合計																																												
				募集人数	200	200	100	150	650																																												
				志願者数	第1会場	456	227	147	260	1090																																											
					第2会場	289	103	76	244	712																																											
	第3会場	96	63		27	52	238																																														
	合計	841	393		250	556	2040																																														
	欠席者数	11	8	5	5	29																																															
	受験者合計	830	385	245	551	2011																																															
	27日	・採用取り消しの高校生、県内で181人。	・前期入試業務（答案整理・採点・成績整理・資料作成） ・1-2年生宅習																																																		
	28日	・政府復興委が10万戸の復興住宅建設を緊急提言。	・前期入試合否判定会																																																		
	3月	1日	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神岩屋一西瀬間復旧。「さんちか」（三宮地下商店街）が一部営業再開。 ・兵庫県私立中学校の入学試験実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期入試合格発表 ・体育館取壊し開始 ・本日より再び特別時間割による授業実施 																																																	
				2日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成7年度校務分掌発表 ・文部省文教施設大阪工事事務所中垣所長及び県教育課私学第2係長千家氏が校内被害の実地検分の為来校した。 																																																
		3日	<ul style="list-style-type: none"> ・復興体制強化で県副知事3人制。 ・避難所の被災者10万人割る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1-2年生学年末考査（3月7日まで）始まる。 考査時間第1時限10：10-10：40 第2時限10：50-11：20 第3時限10：30-12：00 ・東京大学建築学部研究科 橋浩一氏建物調査 																																																	
				4日	<ul style="list-style-type: none"> ・明石で合同慰霊祭。 ・大阪工業大学建築学部 田才晃氏が被害状況調査 																																																
		5日	・神戸・宝塚・芦屋市で合同慰霊祭。																																																		
		7日		・1-2年生学年末考査終了する。																																																	
		10日	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸阪急デパート、モザイク営業再開。 ・JR新長田駅営業開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・文部省による現地調査を受ける。 文部省高等教育局私学部私学助成課齊藤氏ほか2名、大蔵省事務官1名、県教育課川崎・橋本・小川氏が来校 																																																	
				11日	<ul style="list-style-type: none"> ・阪急伊丹駅 仮駅で営業再開 ・3月11日（土）～12日（日）専願合格者制服採寸 																																																
		13日	<ul style="list-style-type: none"> ・阪急王子公園ー三宮間で運転再開。 ・被災8市で2万2千人以上転出。ボランティア延べ100万人。 ・義援金配分総額 780億円 1ヶ月以上の負傷者に5万円 親が死亡した子供に100万円 																																																		
				14日	・1-2年生進級判定資料提出																																																
16日		・あしなが育英会が震災遭見504人、孤児103人と発表。	<ul style="list-style-type: none"> ・進級判定会（1年） 機械科192名、電気科192名、情報電子科99名、普通科147名、計630名全員進級と認定される ・自衛隊全部が退去した。 ・仮設校舎内装 																																																		
17日			<ul style="list-style-type: none"> ・進級判定会（2年） 機械科183名、電気科181名、情報電子科90名、普通科144名、計598名が進級と認定される。 																																																		
18日			<ul style="list-style-type: none"> ・後期入学試験願書受付始まる。 受付第1日目は計5名であった。 ・松浦設計事務所長松浦氏、記念館・体育館の基礎杭調査。 																																																		
22日			・平成7年度新任職員辞令交付																																																		

年	月	日	社会の動き	村工の状況と活動	
1995	3月	23日		<ul style="list-style-type: none"> 前期入学者出校日 県教育課に災害交付申請書(国庫補助)を提出 3月21日、県より第1校舎及び応急仮設校舎の補助事業の内容を受け、応募仮設校舎分のみ交付申請書を作成して提出する。 	
		24日		<ul style="list-style-type: none"> 終業式 後期入学試験願書を締切る。午後入試準備 	
		25日	<ul style="list-style-type: none"> センバツ高校野球始まる。応援席に「がんばれ神戸」のたれ幕 	<ul style="list-style-type: none"> 後期入学試験を実施 本校のみの会場で午前9時から前期入試と同様に国語・数学・英語の3教科を各30分の筆記試験を行った。 志願者数 機械科46名、電気科52名 情報電子科24名、普通科27名 計149名で約6倍の厳しい倍率であった。 合否判定会議 	
		27日		<ul style="list-style-type: none"> 後期入学試験合格発表 	
		28日		<ul style="list-style-type: none"> 職員会議 平成7年度新学期からの授業・教室について伝達した。 授業…1学期 9時10分から40分授業を6時間 2学期以降 通常の体制(8:40~15:00)50分授業の6時間 教室…プレハブ教室を使用 第1校舎解体の為、運動場北側にプレハブ仮設校舎2棟9教室を設置、対応する 	
		30日		<ul style="list-style-type: none"> 平成7年度時間割作成(3月30日~4月1日) 県教育課より災害交付(国庫補助)の決定を受ける。 3月23日に応急仮設校舎の補助事業の交付申請書を提出した後の決定通知である。 →取り壊し及びリース料は翌年度の決定とされ、平成7年4月21日付で額が決定した。 補助対象事業費(仮設校舎〔平成6・7年度〕)48,292,000円 第1校舎の取壊しがほぼ完了し、基礎部分の取壊しが始まる。 	
		31日	<ul style="list-style-type: none"> 震災失業者1万3千人超す。 市営地下鉄上沢駅営業開始 	<ul style="list-style-type: none"> 仮設校舎2棟が竣工する。 普通教室9室・家庭科教室・電算室・職員室 都市ガスの供給開始 	
		4月	1日	<ul style="list-style-type: none"> JR灘一住吉間の運転再開で東海道線全通。 「財団法人阪神・淡路震災復興基金」設立。 	<ul style="list-style-type: none"> 新1年生普通科実力考査 日本私立中・高等学校連合会長 堀越克明氏ほか3名震災視察
			4日		<ul style="list-style-type: none"> 新1年生クラス分け
			5日	<ul style="list-style-type: none"> 芦屋浜シーサイドタウンで液状化現象拡大。 芦屋市では全域で地盤沈下。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2回私立学校施設災害復旧事業に係る事務処理説明会 私学会館に於いて震災補助等に関する説明があり、本校は再度事業計画書を作成し、前回申請以降判明した被害箇所を追加し、写真についても追加編集し、膨大な資料と写真を編集し、6冊作成した。そのうち5冊を4月28日、県に提出した。
	6日			<ul style="list-style-type: none"> 新入生出校日、保護者対象の入学説明会 	
	7日	<ul style="list-style-type: none"> 阪急夙川-岡本間が運転再開。 神戸市が三宮駅南に大地下街構想。 	<ul style="list-style-type: none"> 校務運営委員会 始業式・入学式等に関わる内容と新学期行事の確認等を話し合う。 		
	8日	<ul style="list-style-type: none"> 山陽新幹線姫路-新大阪間で81日ぶり運転再開。 大丸神戸店が再オープン。 			
	10日		<ul style="list-style-type: none"> 始業式・入学式 		

年	月	日	社会の動き	村工の状況と活動	
1995	4月	10日		放送にて午前9時より始業式、運動場にて午後1時より入学式を行う。 ・第1学年に入学を許可された者684名、機械科220名、電気科205名、情報電子科102名、普通科157名 ・職員会議にて新入教職員の6名を紹介する。	
		11日	・大阪ガスが約70万戸の復旧宣言。	・校務運営委員会 食堂に代わる運営について 体育館取壊しで休業していた食堂を再開、設置場所はピロティ横のガレージ部分として、パン・牛乳パック・コーヒー牛乳パック等の販売をすることを決めた。	
		13日	・県内の外国人死者は9カ国179人。 ・伊丹・宝塚両市議選の投票。		
		14日	・震災死者は5502人に。		
		16日	・そごう神戸店再オープン。		
		20日		・被災生徒の納入金（入学金・授業料）の軽減 2月25日に保護者宛に文書案内した内容を、職員会議で再度5月31日までの提出期限とすることの確認と、神戸市被災生徒修学助成金（神戸市教育委員会学校振興室）についての報告が事務所からあった。 ◎神戸市被災生徒修学援助金 該当生徒年額12万円 上記2つの軽減決定発表は6月20日の予定	
		22日		・1年生特別教育活動合宿（4月22日～4月24日） 神鍋高原2泊3日 ・育友会理事会（平成7年度育友会役員選任〔1年生役員は除く〕）	
		26日		・仮設校舎竣工検査（神戸市）	
		27日	・陸上自衛隊 全面撤収	・文部省災害対策ヒアリング 午後1時30分文部省高等教育局私学部私学行政課 関靖直氏、県教育課 川崎氏が来校され下記の内容の実情調査を受けた。 ①「生徒の安全・衛生・健康管理」 ②「学校教育の円滑な実施の対応」 ③「災害時における教職員等の役割」 ④「防災教育・避難訓練の充実」 ・歓送迎会 午後5時より象牙船にて行う。	
		28日		・災害補助計画書提出 4月5日の「第2回私立学校施設災害復旧事業に係る事務処理説明会」での事業計画書（災害補助計画書）を5冊、県に提出する。	
		5月	6日		・午後1時より育友会総会、2時より新理事会 育友会総会出席は102名
			12日	・大雨で神戸・三宮の解体待ちビル倒壊。	・兵庫県南東部大雨洪水警報発令のため休校
			18日	・神戸市の避難所生活者3万人を切る。	・中間考査前日につき午前中授業
			21日	・芦屋市、津知町のテント村閉村。	
22日	・神戸新交通ポートライナーが島内部分運行。				
23日	・義援金2次配分の申請受付始まる。 ・仮設住宅8300戸追加建設決まる。				
25日	・神戸・長田の菅原市場がプレハ				

年	月	日	社会の動き	村工の状況と活動																				
1995	5月	25日	ブ店舗で再オープン。																					
		26日	・来春の小学生用社会科教科書に「震災」記述へ。																					
		27日	・仮設住宅で孤独死。	・中間考査成績提出 ・午後3年生進学説明会																				
		28日	・サハリン大地震発生。																					
		30日		・職員会議で校長から「震災に当たり全国工業高等学校長よりお見舞を頂き、全国の工業高校637校にお礼状を出しました」との報告を受けた。 ・本校体育館・第1校舎の建築工事着工に対して近隣住民の方々に説明会を行った。 午後5時、本校第一会議室で古西教頭、渡辺事務長、明和工務店6名が出席した。																				
	31日		・被災生徒の納入金（入学金・授業料）の軽減 2月25日に文書案内、4月20日に提出期限延長していた全・半壊、全・半焼の罹災者に対する上記軽減の取扱いを本日をもって締切った。6月20日が軽減額の振込み日となる。 ・育友会個人面談（全日） ・体育館取壊し完了																					
	6月	1日	・阪急岡本～御影間、神戸高速鉄道の阪急三宮～花隈間が開通。	・6月1日～6月2日は午前中授業、午後から育友会個人面談を行う。																				
		9日	・西宮市が復興計画。	・修学旅行に関する注意（第6時限） 1月20日、中止になった修学旅行をスキーから沖縄に変えて6月11日（日）～6月13日（火）に実施（情報電子科3年A・B組、普通科3年A・B・C組）																				
		12日	阪急神戸線が全線開通。																					
		14日		・北海道修学旅行出発 6月14日（水）～6月17日（土） （機械科3年A・B・C・D組）																				
		16日	・県教委が高校でボランティア教科設置方針。	・一日鷺羽山修学旅行 1月28日、中止になっていた修学旅行をスキーから日帰りの鷺羽山バス旅行に変える。 （電気科3年A・B・C・D組）																				
		17日	・定住外国人生活復興センター開設。	・被災生徒教育助成金（兵庫県南部地震災害義援金募集委員会） 被災生徒授業料特別軽減についての文書を配布。軽減発表は6月20日に決定する。 該当生徒3、2年生…年額2万円 1年生…年額7万円																				
		18日	・芦屋市が全避難所閉鎖。 ・山陽電鉄が高速長田まで乗り入れ。																					
		20日		・被災生徒最終被害状況調査結果と被災生徒の納入金（入学金・授業料）の軽減者発表 ・被災生徒の被害状況は先に1・2年は2月13日、3年は2月21日に行ったが最終被害状況は下記の表となった。																				
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>全壊・全焼</th> <th>半壊・半焼</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3年</td> <td>70</td> <td>103</td> <td>173</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>63</td> <td>97</td> <td>160</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>72</td> <td>108</td> <td>180</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>205</td> <td>308</td> <td>513</td> </tr> </tbody> </table>					全壊・全焼	半壊・半焼	合計	3年	70	103	173	2年	63	97	160	1年	72	108	180	合計	205	308	513
		全壊・全焼	半壊・半焼	合計																				
	3年	70	103	173																				
	2年	63	97	160																				
1年	72	108	180																					
合計	205	308	513																					
全校生徒1,901名、被災者比率27.0% ・被災生徒の納入金（入学金・授業料）については2月24日、4月20日、神戸市被災生徒修学援助金について																								

年	月	日	社会の動き	村工の状況と活動								
1995	6月	20日		<p>は4月20日、被災生徒教育助成金については6月17日に各々文書で案内したが、その軽減内容については下記の通りになった。</p> <p>(1)被災生徒の納入金(入学金・授業料)の軽減</p> <table border="1"> <tr> <td>全壊・焼の場合…授業料及び入学金の全額免除</td> </tr> <tr> <td>半壊・焼の場合…授業料及び入学金の半額免除</td> </tr> </table> <p>※兵庫県からの財政的支援は、学校が軽減した額の80%相当額の配分を受け、学校の負担額は差額の20%になる。</p> <p>授業料等の減免額 上表の最終被害者513名が対象となり、減免額は次の通りであった。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>授業料</th> <th>入学金</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6,930万円</td> <td>1,900万円</td> <td>8,830万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>県の財政支援は7,160万円(80%) 学校の負担額は1,670万円(20%)</p> <p>(2)神戸市被災生徒修学援助金受給者 (神戸市教育委員会学校振興室) 239名が年額1人当り12万円受給した。</p> <p>(3)被災生徒教育助成金受給者 (兵庫県南部地震災害義援金募集委員会) 501名が2万円(3・2年生)、7万円(1年生)を受給した。</p>	全壊・焼の場合…授業料及び入学金の全額免除	半壊・焼の場合…授業料及び入学金の半額免除	授業料	入学金	合計	6,930万円	1,900万円	8,830万円
		全壊・焼の場合…授業料及び入学金の全額免除										
		半壊・焼の場合…授業料及び入学金の半額免除										
		授業料	入学金	合計								
		6,930万円	1,900万円	8,830万円								
		22日	・神戸電鉄、全線開通									
		23日	・廃材野焼きの残灰からダイオキシン検出。	・体育大会実施について〔橋樑対策(体育班)委員会〕 9月28日(木)予定の体育大会は本年度実施困難な状況にあるので中止と決まった。								
		25日	・神戸港に震災後初の外国客船。									
		26日	・阪神電鉄が160日ぶりに全線復旧。									
		29日	・芦屋市が震災死者20人追加認定。	・期末考査1週間前、時間割り発表								
		30日	・神戸市が東部新都心建設など復興計画発表。 ・宝塚市が復興計画。									
		7月	3日		・兵庫県南部大雨洪水警報(午前8時30分)発令のため休校 ・前校長千葉正樹氏逝去 94才、通夜7月4日 告別式7月5日(於 西神平安祭典)							
			4日	・神戸市が新長田の公園に復興住宅建設へ。	・兵庫県南部大雨洪水警報(午前7時5分)発令のため休校							
			6日	・大雨で神戸・六甲山麓に避難勧告。								
7日			・1学期期末考査始まる。 (7月7日(金)~7月13日(木))									
8日	・兵庫県「ひょうごフェニックス計画」を発表。2004年目標660事業を盛り込んだ復興計画。											
14日			・アメリカ研修旅行(第8回) 7月14日(金)~7月27日(木) 生徒22名参加									
20日	・六甲ライナーが一部開通。		・第1学期終業式									
21日			・午前10時校舎等災害復旧工事地鎮祭 ・夏期休業									
23日		・就職説明会										

年	月	日	社会の動き	村工の状況と活動
1995	7月	23日		9時30分～11時、3年就職希望生徒・保護者対象
		26日		・体育館・記念館の建物についての「建築構造専門家の確認指導依頼」に対して日本建築学会建築委員会耐震性能小委員 田才晃氏から文書回答があり、体育館については「中破もしくは大破」と判定。…設計者が田才氏と面談、体育館と記念館の構造計画書等を呈示し、復旧方法についての検討を依頼した。
		29日		・第22回全国高等学校少林寺拳法大会に出場 7月29日(土)～7月31日(月) 於愛媛県松山市
		31日	・ポートライナー、全線開通。	
	8月	1日		・平成7年度全国高等学校総合体育大会空手道大会に出場 8月1日(火)～8月4日(金) 於岡山県津山市
		7日		・体育館・記念館の復旧方法について 7月26日に依頼した大阪工業大学 田才晃氏が来校され、体育館の構造計算方法の妥当と記念館は中破、その他の補修復旧では基礎のジャッキアップという方法で査定された。
		8日	・兵庫県内の仮設住宅4万8300戸完成、すべて完成。	夏期勉強合宿 8月8日(火)～8月10日(木) 於明石あさぎり荘
		9日		・第1回就職推薦選考会
		10日		・阪神・淡路大震災による災害復旧事業現地調査 文部省2名、大蔵省1名、県職員2名の方々が来校された。
		11日	*	・第1校舎の着工
		13日	・神戸高速鉄道、全線開通。	
		20日	・神戸市内の避難所閉鎖、待機所へ。216カ所の避難所については、仮設住宅が確保できたとして廃止。代わりに、12カ所を待機所に指定。 西宮市には30カ所の避難所が残っている。	
		23日	・六甲ライナー、全線開通。	
		29日		・電算実習室、机・椅子等、稲美第2グラウンド体育館へ搬出
		31日		・教職員連絡網による予行演習実施(午前8時)
		9月	1日	
	2日			・第1校舎建設着工に対しての第2回近隣説明会 5月30日に続いて2回目、本校第1会議室で行った。
	7日			・「学科設置の趣意について」 職員会議に於いて、平成8年度から新たに「機械電子科」2学級を設けるとの報告があった。 従来の機械科4学級を3学級、電気科4学級を3学級、情報電子科2学級を情報技術科に改称して2学級、機械電子科2学級、普通科3学級を合せて13学級とすることになった。
	12日			・進学説明会(1) 本校に於いて午後3時30分より中学校の先生方を対象に来年度(平成8年度)の入試説明会を行った。 中学校78校78名の先生が出席した。 ・修学旅行北海道班出発 9月12日(火)～9月15日(金) (普通科2年A・B・C組)
	18日			・体育館の着工
	19日	・オリックス 初V ・神戸市の人口、この半年間で	・進学説明会(2) 明石市民会館	

年	月	日	社会の動き	村工の状況と活動
1995	9月	19日	4万人減少 (9月1日現在 1,478,600人)	午後3時30分 中学校39校39名の先生が出席した。
		22日		・進学説明会(3) 加古川市立青少年女性センター 午後3時30分 中学校28校28名の先生が出席した。
		25日		・進学説明会(4) 尼崎市総合文化センター 午後3時30分 中学校41校42名の先生が出席した。 進学説明会4会場で合計186校187名の先生方の出席があった。
	10月	7日		・セントラルビル(学校東側)の解体に伴う防塵・防音について第4校舎東側に防音幕を設置してもらう内容の話し合いがあった。
		16日		・震災による災害復旧事業現地調査 文部省斉藤専門官と大蔵省近畿財務部中村事務官及び県教育課丸山主査により、10月16日(月)から17日(火)の2日間にわたり現地調査を受けた。 その結果、体育館…半壊として新築復旧と査定される。 記念館その他の校舎…補修復旧と査定される。 建物・土地・工作物・設備の復旧方法についても査定を受けた。 ※記念館については、本校復興の観点から新築復旧することで計画を立てることになった。 ・第2学期中間考査始まる。
		23日		・「震災の状況と寄付金のお願い」についての検討会 育友会の協力を求め、育友会会員へ「寄付金のお願い」を依頼する方向を考える。 ※3月には同窓会に支援を頂き同窓会長名で「母校救済のために寄付金のお願い」、理事会・校長名で「本校復興に関する寄付金のお願い」をすでにお願ひする。
		25日	・正月映画「男はつらいよ」のロケ長田区の菅原市場で行われる	・「震災の状況と寄付金のお願い」について育友会と打合せる。
	11月	3日		・文化の日 創立記念日
		7日		・「震災の状況と寄付金のお願い」の依頼文の配布 10月23日、10月25日で検討した依頼文を育友会会員へ配布した。 申込要領 ①募金目標額 3億円 ②寄付金額 1口10,000円 なるべく2口以上のご協力をお願いします。口数・金額に関係なくお申し込みいただいても結構です。 ③寄付方法 同封の振込用紙をご利用ください。 ④寄付期間 平成7年10月から平成8年3月まで ・私学震災記録編集委員会へ震災による死亡者山本将司君に関するプロフィール、写真等を送付する。
		9日	・震災義援金1720億円(うち10月末までに750億円が被害者に)	
		12日		・文化祭(復興 元気・勇気・みんなの力で) 仮設校舎を利用した文化祭で、本館両側壁面に巨大キルトを制作、私たちが震災から学びとったことを絶対に忘れないために、みんなにその想いやメッセージを寄せ書きにしてもらいました。
		17日	・神戸市内では、学校など70ヶ所に1370人が避難生活をしている	
		25日		・入試説明会

年	月	日	社会の動き	村工の状況と活動
1995	11月	25日		本校に於いて午後2時～4時、中学生・保護者を対象に 来年度（平成8年度）の入試説明会を行った。 中学校教員2名、中学生107名、保護者97名計206名 が出席した。
		28日		・「震災復旧寄付金のお願い」の依頼文について 上記の依頼文を本校教職員に配布し、復旧資金としての 寄付をお願いした。 申込要領 寄付金額 1口10,000円 専任教職員 なるべく3口以上 非常勤講師 出来るだけ のご協力をお願いします。 寄付方法 同封の銀行専用振込用紙をご利用ください。 寄付期間 平成7年12月末まで
		30日	・倒壊した生田神社の拝殿棟上げ 式、完成は平成8年5月の予定	
	12月	2日	・大震災犠牲者、女性は男性の 1.5倍 男女とも65歳以上が40%以上 (厚生省調査)	・育友会役員会 午後1時30分に育友会理事・学級委員が役員会を行い、 その後、11月12日（日）の文化祭でのバザー・喫茶・ おでん等の売り上げ金586,348円金額を学校に寄付を申 し入れる。
		22日		・第2学期終業式
1996 (平成8年)	1月	17日	・阪神・淡路大震災犠牲者合同追 悼式	・震災1周年に当たり、第1時限初めに校長から忌わしい 震災から2年、その想いと復旧に向けて取り組みや学校 施設の復旧事業を内容とする講和と震災のために亡くな った人達への追悼を行った。
1996 (平成8年)	4月	3日		・第1校舎竣工、復旧修祓式（午前11時小ホール）
	6月	20日		・震災に関する記録集、「阪神・淡路大地震」を発行
	7月	10日		・体育館竣工、復旧修祓式（午前11時体育館）
	10月	14日		・記念館竣工、復旧修祓式（午前11時記念館5F多目的ホ ール） 取壊し 平成7年12月18日～平成8年1月31日 起工 平成8年2月14日
	11月	17日		・校舎新築復旧披露（午前10時記念館5F多目的ホール） 校舎完成の報告・視察会が行われ、招待者に「新築校舎 の概要」「阪神・淡路大震災の記録」「テレホンカード」 等が渡された。 また、この日の午後12時30分から同窓会が新築校舎で ある記念館5階多目的ホールを利用して平成8年度同窓 会総会を開いた。この総会に学校側から村野利昭理事 長・竹内幸夫校長が出席、今回の震災復旧に対する支 援のお礼と本校の近況報告等の挨拶を述べた。
1997 (平成9年)	8月	1日		・震災後の記録第2集として「阪神・淡路大震災の復旧・ 復興記録」が発行される。



創立80周年を迎えて

前校長 竹内 幸夫

村野工業高等学校が創立者・村野山人翁の建学精神を根幹として開学され、輝やかしい発展を遂げて80年の記念すべき年を迎えたことは、まことに欣快に耐えない次第であります。このたび記念誌編集委員会から、学校の震災復興・復旧を中心に原稿の執筆を依頼されました。これらのことは既刊の記録2冊（平成8年6月30日及び平成9年8月1日発行）に収録されているし、また5年も経って記憶が薄れていることも多いので、とくに緊急に対応したことを思い起こして、述べることにします。災害等は予想もしない時に発生し、即時の対応に迫られる場合が多いことに鑑み、組織体として多数の職員・生徒を擁する学校は、平素から危機管理対策を徹底させることの大切さを改めて感じながら。

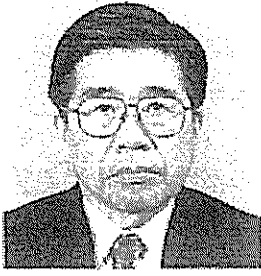
あの時私は自宅の各所が破壊されたが一応は倒壊を免れたことを確かめて、約1時間後には学校に駆けつけていました。既に校門付近に避難者が群がっていて、次第に数も増加してきました。避難者の収容は考えてもなかったことですが、即断してとりあえず食堂を避難者に開放しました。携帯ラジオ受信機を守衛室に持ちこんできたので（原田教諭）情報がわかるようになり、また南や西方向から火災の黒煙と火炎が望見されて心配でした。長田福祉事務所長が死亡者の遺体収容場所を求めて来校。40体ほどというので、承知したのですが、続いて搬入される数が増加して3日間も続いたので、その対応と収容場所探しと指示に苦勞しました。又絶え間の無い外部からの電話と遺体関係者・来訪者・避難者の出入りにボランティアも混ざり、陸上自衛隊

の幕舎設置や車両で運動場が埋まる等も重なって、校内いたるところで大混雑を呈しました。守衛（前夜宿直）一人が帰宅できないで対応に忙殺され、ひとときは宝田教諭等の協力でしのぎました。電気の不時供給に備え受電室を点検して、危険となっている個所を職員の協力で措置したり、避難者等の使用と水が出ないことで便所が充満し散乱したので仮設の設置を手配したり、仮設電話の設置に立ち合ったり等々。学校対策の対象と思わなかったことへの取り組みに迫られて学校や生徒への対処は叶えられず、落ちつかない中で漸く1月21日10時に随意出校してきた職員（約50名）を糾合。校内点検と応急の片付けに当たり、生徒連絡と安否確認、出校日時・卒業試験・卒業式などを協議したのです。翌22日（日曜）サンテレビ局に連絡して、職員・生徒向け放映を依頼してFAXを送りました。一方で被災直後から被害の専門的調査と安全確認を電話で依頼していたことが、24日・25日に松浦構造設計事務所長と明和工務店中島設計部次長によって実施されたので、早期復旧の取り組みを始めることとなり、26日緊急対策プロジェクトチームを編成。煩雑な業務を経て2月20日、第一校舎・体育館の取壊し開始に漕ぎ着けました。

さてここで今後の村工の発展に思いを馳せ、21世紀を目指した大いなる教育活動が展開することを祈って終わります。

創立80周年に寄せて

前教頭 吉西 明男



神戸村野工業高等学校が、大正10年創立者村野山人翁の「立国の基は工業の振興にあり」の信念をもって創設以来、幾多の困難を乗り越えて充実・発展を果たし、ここに創立80周年を迎えるに当たり、心よりお慶び申し上げます。

「本校震災復興・復旧について」記念誌編集委員会から原稿の執筆依頼があり、当時を追憶して述べることにします。平成7年1月17日東明に発生した阪神・淡路大震災は未曾有の大惨事をもたらし、学校の機能までも根幹から揺り動かすものでした。本校でも、2年生1名が犠牲になったことは痛恨の限りでした。建物も損壊等多大な被害をもたらし、学校は近隣住民の避難所や、長田区の遺体安置所に、校庭は陸上自衛隊の駐屯地に提供されました。また、交通機関の途絶、ライフラインも寸断される状況でした。1月19日神戸市営地下鉄の西神中央・板宿間が開通となり、校長より1月21日10時から緊急職員会議開催の指示があり、教頭と事務長で手分けして、電話で教職員の安否の確認と用件の連絡をする。しかし、電話が不通だったり、麻痺状態で困難をきわめた。それでも、当日は102名中50名の出席があり、校長より学校被害状況等の説明と今後の方針の説明があり、全員で校舎内の破損箇所の点検と整備作業を実施。学級担任は生徒の安否の確認と、1・2年生は2月1日午後1時登校。3年生は学年末試験中止、2月21日午後1時卒業式を行う。それまで自宅待機の連絡をとる。更に、この通知をサンテレビ局を通じ放映を依頼した。1月26日緊急対策として、授業・行事、

施設復旧、入学試験、震災関係の外部報告・連絡の4つの部門のプロジェクトチームを編成。検討・立案して校長の承認のもと、具体的な作業に取り組んだ。1月30日職員会議を開催、全員出席。校長より学校被害状況の報告、教育活動の正常化に向けての方針の説明があり、協力体制で対応する。2月1日は1・2年の出校日、88%の生徒が出席。欠席者を含め全員の安否を再確認、被害状況等も掌握できた。2月13日から授業を再開する。3年生は1・2学期学習成績と出席時数をもって卒業判定を行った。595名全員の卒業が認定され、2月21日校庭で卒業式が挙行された。3年生からは被災した在校生の為に、多くの制服や学用品などの提供があり、役立たせて頂いた。入学試験も交通機関が寸断の状態なので、本校と明石、尼崎の3会場に分けて2月26日に事故もなく実施した。復旧に向けては、教職員が一体となって協力しあったこと、また、運動部の生徒が中心になって運搬や整備の作業に協力してくれたことを思い出します。ただ残念であったのは震災による家庭の事情等から退学を余儀なくされた生徒があったことでした。

次に、校舎や施設・設備も甚大な被害を受けました。学校は迅速に対応して頂き、第一校舎、体育館、記念館を解体・再建することになり、その間、仮設校舎2棟を設置。4月からは平常授業に近い形で授業を行いました。

第一校舎は翌年の4月に、体育館は7月に、記念館は10月に完成し、以前よりも充実した機能的な施設・設備の設置と、最新の情報システムや多くの教育機器が導入され、教育基盤の整備ができました。この年の4月からは機械電子科が新設され、一層活力ある学校づくりに努め、成果を挙げることになりました。

80周年を契機として、「伝統と特色のある村工」となりますよう、更なるご発展を祈念いたします。

